



SHIRETOKO
NATURE FOUNDATION

Shiretoko Nature Foundation

ANNUAL REPORT

年 次 報 告
2020

ETOBUNSHA.



公益財団法人 知床財団

ANNUAL REPORT - 年次報告 - 2020

公益財団法人 知床財団



知床財団の Mission

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、
世界遺産知床の自然を守り、よりよい形で次世代に引き継いでいきます。
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、
人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

contents

はじめに	03
知床財団の12ヶ月	04
「知る」活動	06
「守る」活動	10
「伝える」活動	14
事業収支	18
いただいたご支援	19
賛助会員	20



撮影：梅村佳寛



はじめに

2020年度は、知床を「知り、守り、伝える」活動をより確かなものにするために、地域とのつながりを深めることを目指しましたが、結果的には新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。

この間、人の移動制限による知床への来訪者の減少は観光事業などに甚大な影響をもたらし、経済活動や日常生活への自粛要請によってこの地域にも閉塞感が漂い、私たちの活動も中止や縮小を余儀なくされました。

しかし、そんな中にあっても野生鳥獣対策や国立公園内の施設管理運営業務などを続けることができ、さらに、コロナ禍における新たな取り組みとして国立公園内の交通システムの試行事業やオンラインショップの運営強化にも踏み込むことができました。

社会全体が苦しい時代からこそ、新たな発想でチャレンジし続けることが知床で活動する私たちの使命だと感じています。

2020年度も多くの個人・企業の皆さまからあたたかいご支援をいただきました。これらは知床財団にとって大きな励みであり、確かな支えになっています。この報告を通して地域や関係する皆さまに活動の一端をお伝えすることができれば幸いです。

理事長 村田良介



知床財団 10年プロジェクト

10年プロジェクトは、知床財団が10年後にめざす姿を明らかにした私たちの羅針盤です。「国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和の実現」、「野生動物と折り合いをつけていく地域社会の実現」、「しれとこ100平方メートル運動の推進」及び「自主・自立の旗を立てる」の4つの大きな柱から成っています。

知床財団の12ヶ月 ～2020年度の活動・出来事から～

2020

4月

- 守る サクラマス稚魚降下調査
斜里・羅臼の市街地を囲む電気柵稼働
- その他 知床五湖園地開園
知床自然センター、知床羅臼ビジターセンター臨時休館



5月

- 知る ヒグマ個体数推定のためのヘアトラップ調査開始
- 守る 地域の有志とクマ対策草刈り実施
- 伝える 会報誌SEEDS春号発行
- その他 第1回理事会(書面)



6月

- 知る ヒグマ個体数推定のための糞カウント調査開始
- 守る 羅臼町内会による大規模草刈り実施
100平方メートル運動地のアカエゾマツ密度調整作業
- 伝える 斜里町ウトロの小中学校でクマ授業
知床岳・知床連山(羅臼岳～硫黄山)の巡視
- その他 定時評議員会
第2回理事会(書面)



7月

- 伝える 知床ディスタンスキャンペーン開始
知床自然センター KINETOKO 新作2作品公開
知床岬トレッキング/シーカヤック巡視
ネットショップをリニューアル
羅臼町の学校でクマ授業(10～12月も実施)



8月

- 知る カラフトマス遡上産卵調査
- 守る 知床自然教室ライブ配信イベント開催
- 伝える 会報誌SEEDS夏号発行



9月

- 伝える ゴールドウィン共同プログラム「サーモンウォッチング」開催
旭山動物園の「あにまるハッピーマーケット」に出展
知床羅臼National Park Fes(ルサカフェ)実施



10月

- 知る エゾシカライトセンサス調査
- 守る フレペの滝遊歩道整備「たまには山へ恩返しin知床」開催
森づくりワークキャンプ
- 伝える 知床オータムフェス開催
知床バスデイズ初開催、会報誌SEEDS秋号発行
- その他 第3回理事会



11月

- 伝える 知床五湖引率者スキルアップ研修
- その他 羅臼町ルサ園地整備デザインに着手、第1回臨時評議員会(書面)

12月

- 知る 羅臼でトド調査開始
- 守る エゾシカ個体数調整事業開始
- その他 第4回理事会



2021

1月

- 伝える 会報誌SEEDS冬号発行、冬の森づくりの道OPEN

2月

- 伝える ゴールドウィン共同プログラム「流氷ウォーク」開催
知床自然センターにてBread&Coffee開催



3月

- 知る 日本生態学会にweb出席
エゾシカの知床半島全域ヘリコプターカウント調査
- その他 第5回理事会



封鎖された知床自然センターの駐車場



臨時休館中の知床五湖園地

新型コロナウイルス感染拡大防止のため ビジター施設が臨時休館

2020
Big News

2020年は新型コロナウイルス感染症の対応に追われた年でした。2月に発令された北海道独自の緊急事態宣言に始まり、4月18日から5月15日にかけては国の緊急事態宣言により町内の観光施設をはじめ、私たちが管理、運営している知床自然センター、知床羅臼ビジターセンター、知床五湖フィールドハウス、ルサフィールドハウスも相次いで臨時休館となりました。休館期間が明けても対面レクチャーの中止、ハンズオン展示の撤去など従来どおりのサービスを提供できない“日常”へと変化しました。新たな日常に対応するためtwitterやインスタライブなどSNSでの情報発信に注力し、休館中だからこそ、今のスタイルだからこそできるサービスを開拓する機会となりました。

知床オータムフェス2020開催

2020
Big News

10月2日から計10日間におよぶ知床オータムフェスを開催しました。最初の週末は知床自然センターでマイカーからシャトルバスに乗り換える「知床オータムバスデイズ」(P.14～15)を初めて実施し、フィナーレには2020年で3年目を迎えた「知床アウトドアフィルムフェス」を開催しました。期間中はガイドツアーやワークショップの開催、地元食材を使ったカフェの出展のほか、7月に公開となった知床自然センター KIENTOKOの新作映画の完成披露を兼ねた今津秀邦監督トーク&ライブを実施しました。2019年に続き2020年もしれとこ100平方メートル運動の植樹祭を同時開催し、運動参加者にもフェスを楽しんでいただくことができました。新型コロナウイルスの蔓延により開催が直前まで危ぶまれましたが、関係機関や参加者の感染防止対策への積極的な協力により実現しました。

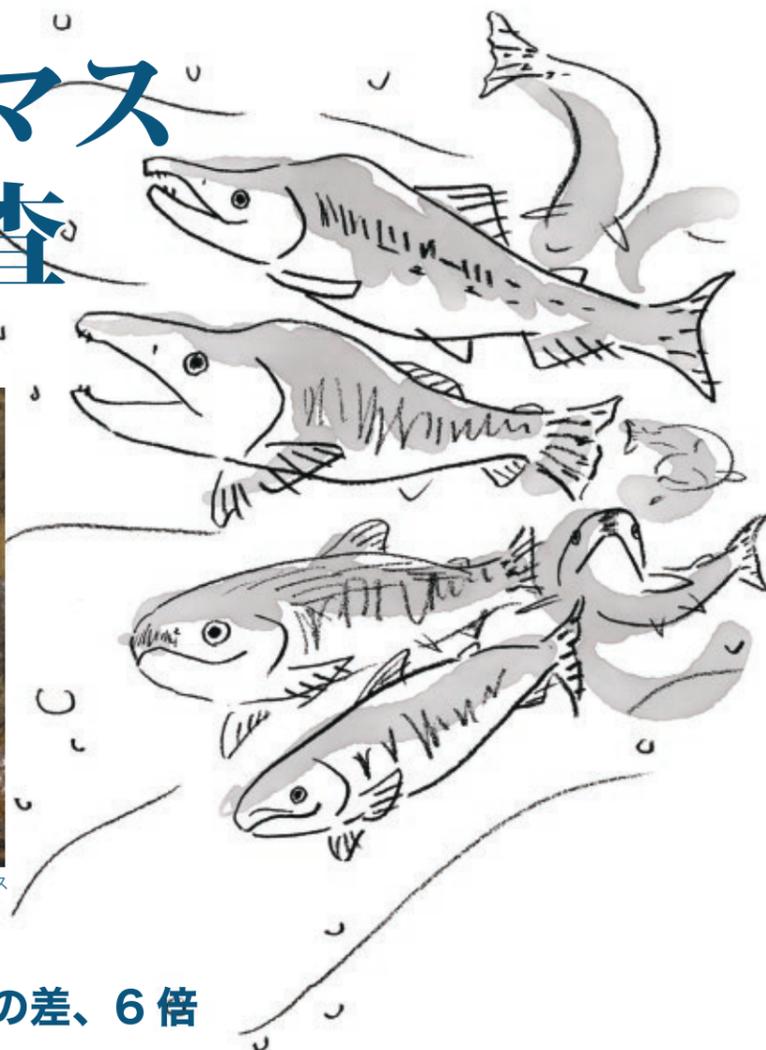


1 地道な調査で肉薄！

豊漁年のカラフトマス遡上数調査



産卵後に息絶えたカラフトマスのメス



不漁年と豊漁年の遡上数の差、6倍

環境省の「環境研究総合推進費」による3ヵ年計画の調査研究プロジェクトに関連した、ヒグマの食物の資源量調査の一環として、ルシャ川およびテッパンベツ川におけるカラフトマスの遡上数調査を2020年8～10月に計16回実施しました。2時間おきに20分間、川の中の調査ラインを横切るマスをひたすら数え続ける調査を1日5回繰り返し、数式によって調査しなかった時間帯の遡上数も含めて推定する、という手法の調査です。同様の調査は、林野庁によって原則隔年で実施されていましたが、今回林野庁調査の空白年である2020年に調査を実施した結果、7年ぶりに豊漁年の調査データを得ることができました。その結果、豊漁年には不漁年の6倍以上のカラフトマスが河川に遡上してきていることがわかりました。

ルシャ川・テッパンベツ川の河口付近は、知床半島の中でもヒグマが特にたくさん集まるエリアのため、マス調査中に調査ラインの下流や上流でヒグマがマス捕りを始めてしまい、川の中のマスが右往左往して攪乱されるようなことも何度かあり、現場では対応に悩まされました。

※環境研究総合推進費「遺産価値向上に向けた知床半島における大型哺乳類の保全管理手法の開発(2019～2021年度)」による事業の一部として実施されています。



ルシャ川の調査ライン



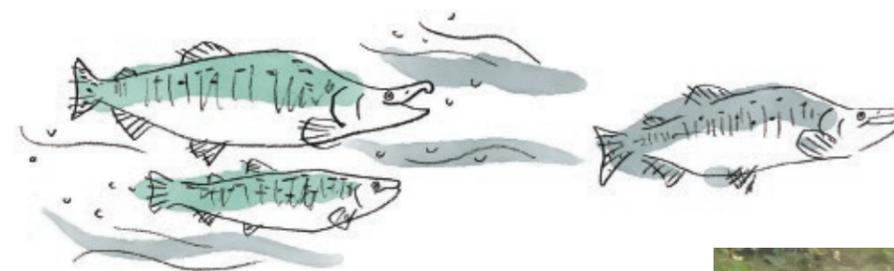
カラフトマスをカウントする職員



遡上するカラフトマスの群れ



調査の休憩時間に調査ラインを横切ったヒグマ



マスのカウントを一旦始めたら、その後20分間は川から目を離せなくなります。ヒグマだらけのルシャ地区では、調査員のすぐ背後をヒグマが通り抜けるという状況も油断すると起きかねないため、マス調査は必ず2人1組で行い、カウントをしないもう1人は、周囲に広く目を配って警戒する役やヒグマを大声で追い払う役などを担いました。

また、ヒグマウォッチング目的の観光船事業者やお客様から「あんなヒグマだらけの所で突っ立てるあの人たち、何なの？」と疑問に思われないようにするため、事前に知床小型観光船協議会の事務局に、調査日程や調査内容などをお伝えしておきました。

調査の合間の休憩時には、マスを生食した結果、肛門から条虫(サナダムシ：腸管内で栄養分を横取りする寄生虫の一種)をぶら下げて歩く羽目になったヒグマを目撃するなど、知床の海と陸の生き物のつながりを普段とは違う側面から見る機会もありました。



ヒグマの肛門からのびている日本海裂頭条虫の虫体



条虫入りクマ糞

2 個体数調整の効果は？

10年 project

エゾシカの増減をモニターする

羅臼町内のエゾシカの増減を調べるため、毎年春と秋にそれぞれ五夜、北浜から相泊までの道沿いで車中から個体数をカウントしています。知床では関係行政機関により増えすぎたエゾシカの捕獲が進められており、その効果を知るためにカウント調査は重要な調査です。調査開始時の2010年から2014年までは捕獲による効果から顕著な減少傾向がみられましたが、それ以降は横ばいとなっています。



調査区内の自動撮影カメラに写ったエゾシカ



5 生息数がリバウンド!?

知床半島全域のエゾシカの数から数える

有人ヘリコプターによる知床半島全体の広域エゾシカ航空カウント調査を、5年ぶりに実施しました(2021年2月25日～3月5日、環境省からの受託業務)。例年の3倍にあたる計30区画の調査区を飛行し、合計1,734頭のエゾシカを発見しました。知床岬や真鯉地区など半島内各地でエゾシカの再増加傾向が認められ、隣接する区画からのエゾシカの移動や、捕獲効率の低下によるリバウンドが起こっている可能性があります。



調査中のヘリコプター機内の様子



上空から見たエゾシカ

3 事故のない公園利用のために 知床半島先端部の 入域状況を調べる

知床半島先端部地区の入口である相泊で、夏の利用シーズンである7月21日から25日の5日間、先端部地区に立ち入る方々に入域調査として年代や目的地、行動予定、ヒグマ対策やルサフィールドハウスへの立寄りの有無など聞き取りを行いました。調査は早朝から日暮れまで終日行い、この5日間に計27組60名から回答を得ました。聞き取り結果は、今後の事故防止やルールの周知のために役立てられます。



聞き取り調査をする職員

4 近隣の町のヒグマを知る

10年 project

大空町でのヒグマ生息実態調査

ヒグマの出没件数が近年増加傾向にある大空町(女満別空港の所在地)から業務を受託しました。自動撮影カメラなどを用いたヒグマの生息状況調査や、町立小学校における普及啓発活動を実施しました。調査結果などから、藻琴山方面から河畔林沿いにヒグマが北進し、さらに網走市方面へと移動していく経路の存在が示唆されました。



大空町内に設置した自動撮影カメラ



大空町の小学校で初めて実施したクマ授業

6 ドングリとヒグマの関係は？ ミズナラ結実量調査

ヒグマの食物の資源量調査の一環として、ミズナラ(ドングリ)の結実量調査を前年度に引き続き8月下旬～9月初旬に行いました。知床半島全体を6つの区画に分け、それぞれの区画で20本のカウント対象木を選定して、2人の調査員が双眼鏡で枝先の実を複数回カウントし、平均値をとる方法で調査を実施しました。同じ半島内・同じ年でも区画によって実のなり具合がかなり異なることがわかりました。

※環境研究総合推進費による事業の一部として実施しています。



ミズナラの実をカウントする職員

7 変わりゆく植生 フレペの滝遊歩道の 植生調査

知床自然センターに隣接するフレペの滝遊歩道に育つ植物の調査を2014年より継続して行っています。調査は花が咲き始める4月から10月にかけて実施し、遊歩道沿いに開花している花を記録しています。2020年は55種の花を確認することができました(木本は除く)。エゾシカの食害のため姿を消していたセンダイハギなどの植物も、ここ数年のエゾシカ個体数調整の効果もあり、数種ずつ確認されるようになりました。



地面に咲いている小さな花を観察する職員

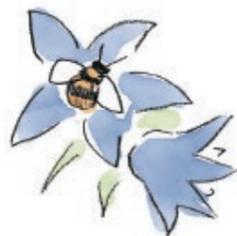


開花を確認できたセンダイハギ

1 ヒグマと人がうまくやっていくために

10年
Project

地域の 皆様と 進める クマ対策



市街地に点在するヤブはヒグマが人の生活圏に近づく隠れみのとなり、人とのあつれきの原因にもなります。その結果、クマを捕殺せざるを得ない状況も実際に起きています。住民、そして訪れる人が安心して過ごせる街を維持するためには、人間側の努力が必要です。草刈りをして見通しを良くし、ヒグマがひそみづらく、容易に街に近づけない環境を作ることで、人の暮らしもヒグマも守ることにつながります。



「クマ活」、始動しました



斜里町ウトロで宿泊業を営む北こぶしリゾートのCSR活動「クマ活」に企画段階から協力・参加しました。

「クマ活」は、同社が60周年を迎えたことを機に“知床をつづけていく”活動のひとつとして立ち上がった「草刈り」を中心とする活動です。はじめは、北こぶしリゾートから困っていることはないか、何か我々にできることがあるだろうかと相談いただいたことがきっかけでした。クマ対策の有効な手段の1つに「草刈り」がありますが、知床財団職員だけでは労働力に限界があります。そこでぜひともこの作業に力を貸してほしいとお願いし、当プロジェクトが始まりました。

初年度の2020年は草が一気に伸び始める5、6月に合計4回実施しました。今後も積極的にクマ活を応援していきます。



羅臼町あげてのクマ対策

羅臼町のヒグマ対策としての草刈りは、知床財団だけではなく地域の皆さんの力を得て進められています。羅臼町の住宅の多くは、その地形からヒグマの生息する森を背にしており、人とクマの生活圏がとても近い状況にあります。この状況下で、クマが人の生活圏に近づきにくくする方法として有効なのが、電気柵と草刈りです。

2020年、知床財団が呼びかけ人となり、各町内会が主体となった草刈りが初めて行われました。11町内会で、のべ176名の皆様と地元の建設会社7社にご参加いただきました。

その結果、住宅地裏のササやフキがきれいに刈り払われ、クマがひそんでフキなどを食べにくい環境が広がりました。何よりこの取り組みを通じて、知床のクマの状況とその対策の必要性について多くの住民の皆さんと一緒に考え、活動できたことが成果でした。





2 ヒグマによる人身事故を防ぐために

人の不注意が作り出した危険ヒグマに対応

2020年7月31日、遺産地域の境界線である幌別川河口で同じ日に複数回、釣り人が釣った魚(カラフトマス)をヒグマに奪われました。同日中にそのヒグマの皮膚片をダートバイオブシー(生検用の針を空気銃のガス圧を利用して発射すること)で採取し、北大にDNA解析を依頼したところ、そのヒグマには人へのつきまといなどの前科があった可能性が浮上しました。後日、このヒグマは射殺されましたが、射殺されるまでの期間、このヒグマは漁業者に異常接近して漁船の上に乗り込むなどし、釣り人以外の人々が危険にさらされる事例も発生しました。このような事例は知床半島内のサケ・マス釣り場で毎年のように発生しています。対症療法的な対応をくり返すだけでは人身事故のリスクを下げるできないため、釣り場の適正な管理を目指して法制度などに関する調査・検討も開始しました。



荷物から離れてマス釣りをする釣り人の一例



3 遊歩道を近自然工法で整備 「たまには山へ恩返し in 知床」を初開催

知床自然センター裏手から続く「フレベの滝遊歩道」を地元の方々と整備しました。講師には大雪山を拠点に各地で登山道整備を行う「山守隊」の岡崎哲三氏をお迎えし、「生態系を還元させる」という発想の近自然工法を用いて道を整備しました。なるべく自然界にあう形で、その場で手に入る材料を使い、歩く人が自然な形で足を置いてくれるように…、とあらゆる視点で整備の仕方を参加者みんなで考え、手を動かしました。地元の様々な立場の人が集まり遊歩道整備をした今回の取り組みが、知床国立公園内の散策路整備の新たな形になるのかもしれない。



当日は、地元のネイチャーガイドや環境省職員、ゴールドウインスタッフなどたくさんの地元関係者の方々に参加いただきました。

4 自然に近い森を目指して

10年 Project

アカエゾマツ林を間引きして密度を調整する

しれとこ100平方メートル運動地には、過去に植林されたアカエゾマツの造林地が121haあります(全運動地の約15%)。植えられてから数十年が経過した造林地は、他の植物が侵入できない鬱蒼とした単層林になっています。2020年度は4haの造林地でアカエゾマツ2,800本の密度調整を行い、その他にも自然に強風で倒れたようなギャップを3か所造成して、適度に空間を空けて多様な樹種の種が芽吹くことができる環境を作りました。これから先は、近くにある広葉樹から種子が散布されて、年月とともに複層林へと移り変わっていく、いわば「自然の摂理」を活かした森づくりを行っていきます。



間引きされたアカエゾマツ林



5 森づくりを進める新しい手法

10年 Project

ササ地の掻き起こし

しれとこ100平方メートル運動地には、開拓後40年以上経ても森林化が進まないササ地・牧草地が点在します。2020年度は0.3haのササ地を対象に、重機を用いてササを表土ごと掻き起こし、ササの根が枯れてから表土を戻す作業を行いました。この「ササ地の掻き起こし」は、2017年度から試験的に始まり、これまでの作業地ではササの衰退が見られています。順調にササが衰退すれば、他の草本や樹木が侵入できる余地が生まれ、森林化が期待されます。



重機でササ地の表土を掻き起こす

6 より効率的な管理を

10年 Project

クマ対策もデジタル化

羅臼町では、小学校と中学校がある中心市街地の北側と南側に電気柵を設置しています。これらの電気柵は、通電ラインに雑草や倒木などの異物が接触してしまうと電圧が低下するため日常の維持管理が欠かせません。そのため、これまで週1~2回現地で電圧を確認する必要がありました。そこで2020年度より、web上で通電状況をリアルタイムに監視することができるシステムを導入し、作業の効率化を図るとともに、より綿密な維持管理を図る体制を構築しています。



導入した電柵監視システム(商品名:エフモス)

1 移動をサービスに

10年
Project

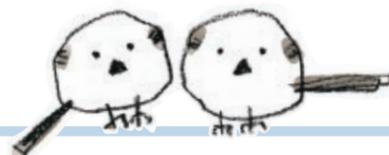
「知床オータムバスデイズ」 初開催！

新しい付加価値を創造して 国立公園内の課題を解決

10月1、2、3日の三日間、知床国立公園の入り口に近い知床自然センター以奥へのアクセスにはバスを利用してもらう、初めての公園利用システムを行政や地元関係機関と協力して実施しました。

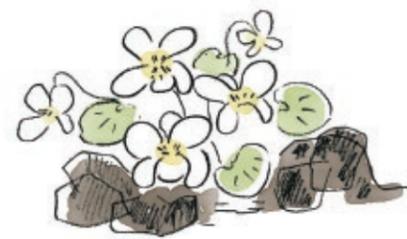
知床国立公園内の道路沿いではかねてより多くの課題がありました。繁忙期になると起きる知床五湖の駐車待ちの渋滞、秋のサケを狙って川沿いに現れるヒグマによって起きるクマ渋滞、不用意な接近、登山口からあふれる縦列駐車の数々…。人身事故や交通事故の危機感が高まる中、これらの課題を解決しつつ、訪れた人に知床らしさをより体感してもらえる方法がないか、私たちは頭を悩ませていました。

もともと知床では、1997年から夏のハイシーズンに限って実施されるマイカー規制＝シャトルバスシステムが導入されてきました。しかしこれは期間も区間もごく一部で、前述した様々な課題の解決には至らず、また単なる輸送手段になりがちでした。そこで試行に踏み切ったのが、「移動をサービスに」をコンセプトに、知床自然センターでマイカーからバスに乗り換えてもらう「知床オータムバスデイズ」の実施です。



今回試行した利用システムは、単にシャトルバスを走らせるのではなく、バスに地元ネイチャーガイドが同乗したり、普段は立ち入れない岩尾別ふ化場へのガイドツアーをイベントプログラムに組み込んだりするなどして、「バス移動」に付加価値を加える形を目指しました。また、道路沿いにもしもヒグマが姿を見ることがあれば、バスの速度を落として乗客に観察してもらったり、車両の中から写真を撮ってもらうこともできました。

アクセスコントロールが単なるヒグマとの軋轢対策や混雑の解消の手段ではなく、野生動物観光の要素を含む“サービス”というものに置き換えられれば、知床国立公園の魅力アップや新たな価値の創造につながっていくと私たちは考えています。今回の試行事業で、もちろん課題も見えました。ガイドトークをするには現状のバスの運行速度では速すぎることや、登山者の輸送については便数的に不十分だったこと、また今後の収支経営についても不安があります。しかし、まずは実施できたことで今後の国立公園利用を考えていくひとつのきっかけを作れたのではないかと考えています。



バス車内で解説する地元ネイチャーガイド



アウトドアマーケット



期間中に設置された屋外アート



岩尾別ふ化場ガイドツアー



シャトルバス

イラスト：ごとうまきこ

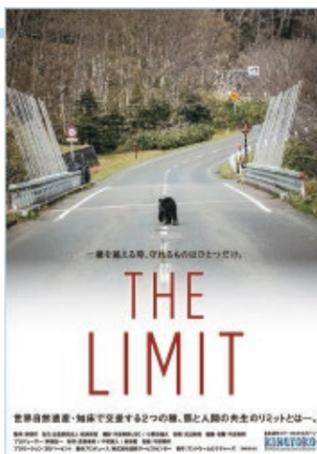
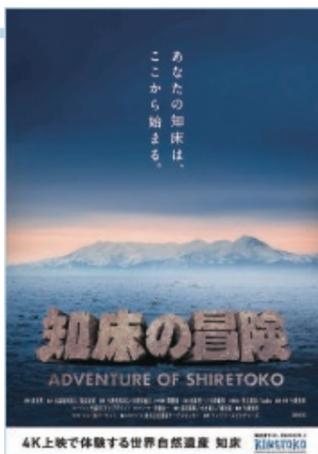
2 30年ぶりに一新

10年 Project

KINETOKO 新作2作品公開!

知床自然センター館内「メガスクリーンKINETOKO」における上映作品が、2年間の制作期間を経て2020年7月に一般公開されました。作品を手掛けたのは2017年度日本映画撮影監督協会JSC賞をはじめ多数の受賞歴をもつ旭川出身の今津秀邦監督。

知床の陸海空で繰り広げられる四季の移り変わりを作品を通して体感する「知床の冒険」、ヒグマと人の間に生まれる軋轢をテーマにしたドキュメンタリー作品「THE LIMIT」、知床の表舞台と裏舞台を描き、両作品とも4K映像、5.1chサラウンドでお届けしています。



3 ヒグマとの共存に向けて

今年もクマ授業を実施しました



地元斜里町ウトロで実施したクマ授業

地元の斜里町と羅臼町の学校で毎年行っているクマ学習は、コロナ禍の影響で日程変更などを繰り返しながら、2020年度も実施しました。一部ではオンライン授業を用いましたが、予定していたすべての学校においてヒグマの生態やヒグマと出合わないために必要な知識、出合ってしまった時の対処法などを学習してもらいました。

4 地域の魅力を伝えるプログラム

10年 Project

ゴールドウイン 共同イベントは2年目へ

知床自然センター内で株式会社ゴールドウインが運営する「THE NORTH FACE/ELLY HANSEN知床店」は、アウトドアウェア、ギアの提供だけでなく、地域とのコミュニティづくりや知床の魅力を発信するプログラム企画にも積極的にご協力いただいています。2020年度は、斜里町役場や地元ネイチャーガイドとともに2回のイベントを企画、実施しました。



9月の「SALMON WATCHING TOUR」。早朝の漁船水揚げ見学も予定していましたが悪気のため写真や動画によるレクチャーを行いました。



2月に実施した「流水ウォーク」。地元ネイチャーガイド「SHINRA」のスタッフに現地案内をお願いしました。

5 リモートで伝える、知床のいま

知床自然教室初のライブ配信

しれとこ100平方メートル運動参加者の子弟を対象に、実際に知床の自然や森づくりを体験してもらう知床自然教室。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。異例の事態だからこそ、つながりを大切にしたいという思いから、ライブ配信を企画しました。ベテラン指導員らが今のポンホロ(ベースキャンプ地)の様子を現地から伝え、参加を楽しみにしていた子どもたち20人と交流を深めました。



ポンホロで配信する様子

6 キープディスタンス

ニンゲンもクマも 距離感が大切



ヒグマとの適正な距離は50m以上、エゾシカは30m以上。腕を伸ばしてカードを掲げ、適正な距離感を確かめる枠より対象動物が大きいと近づき過ぎのサイン。

知床国立公園では、利用者が観察や撮影を行うため野生動物に過度に接近する事例が度々発生しており、突発的な人身事故の発生が懸念されています。そこで、「ニンゲンもクマも距離感が大切」をテーマに、知床ディスタンスキャンペーンを実施しました。野生動物との適正な距離を測ることができるディスタンスカードを各施設で配布したり、関係団体と協力して観光客に対する普及啓発イベントを開催しました。



7 ゴミだらけの知床

ゴミ不法投棄が頻発、SNSで呼びかけ

2020年はゴミの不法投棄への対応が非常に多い年でした。回収したゴミには、ヒグマが餌付く可能性のあるオニギリなどの生ゴミ、汚れた弁当トレー、釣り餌などが含まれていました。国立公園境界付近ではビニール袋をくわえたヒグマが目撃され、ゴミを一度飲み込んだヒグマの糞も発見されました。ホームページやSNS等でゴミ投棄防止を呼びかける情報発信を積極的に行い、関係機関の協力で看板や自動撮影カメラを増設するなど取り組みを強化しました。また、知床自然センターでゴミの受入サービスも開始しました。



事業収支

2020年度の経常収益は、3億6,661万円でした。そのうち約8割を事業収益が占め、その大半は行政機関からの受託事業による収益でした。

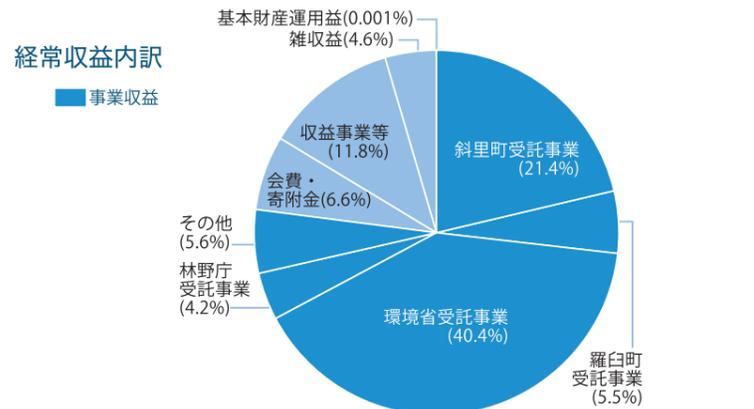
賛助会費や寄附金に加え、物品販売・講演・実習受入などの収益事業等により得られた収益は、当財団独自で行う活動の貴重な財源になっています。

2020年度 決算データ

正味財産増減計算書

(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) (千円)

科目	金額
基本財産運用益	5
事業収益	
斜里町	78,305
羅臼町	20,209
環境省	148,014
林野庁	15,467
その他	20,411
会費・寄附金	24,127
収益事業等	43,081
雑収益	16,999
経常収益計	366,618
事業費	362,270
管理費	7,978
経常費用計	370,249
当期経常増減額	△3,631
当期一般正味財産増減額	△1,631
当期指定正味財産増減額	△1,970
正味財産期末残高	126,684



貸借対照表 (2021年3月31日現在)

科目	金額	科目	金額
流動資産	161,956	流動負債	123,024
固定資産	130,741	固定負債	42,989
基本財産	45,000	負債合計	166,013
特定資産	73,127	指定正味財産	53,280
その他固定資産	12,613	一般正味財産	73,404
		正味財産合計	126,684
合計	292,697	合計	292,697

2020年度 主な受託事業一覧

■ 斜里町事業

- 知床自然センター他管理業務
- 知床五湖水道施設等管理業務
- ヒグマ管理対策業務
- 自然環境保護管理対策業務
- しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務
- アカエゾマツ密度調整業務

■ 羅臼町事業

- 知床羅臼ビジターセンター運営業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス運営業務
- ヒグマ管理対策業務
- 野生鳥獣及び自然環境保護管理業務

■ 林野庁事業

- 知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業 (困いわな等)

■ その他

- 環境研究総合推進費研究共同実施事業
- サケ科魚類モニタリング調査委託業務
- 赤イ川における降下サケ科魚類稚魚採集調査業務
- 知床五湖当日受付カウンター運営業務

■ 環境省事業

- 知床羅臼ビジターセンター維持管理等業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務
- 知床野生動物保護管理対策業務
- 知床世界自然遺産地域科学委員会等運営業務
- 知床国立公園 (春期) エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務
- 知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床世界自然遺産地域沿岸における海洋観測に係る検討等業務
- 知床国立公園知床五湖利用調整地区管理対策等業務
- 知床国立公園適正利用等検討業務
- 知床五湖登録引率者養成研修等業務
- 知床五湖当日受付カウンター運営業務
- 知床五湖フィールドハウス運営管理等業務
- 知床五湖指定認定機関 (立入認定手数料)
- 知床半島先端部地区利用状況調査業務
- 知床半島先端部地区羅臼側海岸域における利用適正化推進業務

- カムイワッカ地区自動車利用適正化対策の実施に伴う現地管理連絡調整等業務
- カムイワッカ地区自動車利用適正化対策の実施に伴う会議運営等業務
- 国立・国定公園への誘客事業費 (知床もっとアウトドア! プロジェクト事業)

いただいたご支援

お寄せいただきました一般寄附金は712万円、指定寄附金は653万円でした。ご支援いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

2020年度 寄附をいただいた主な法人

法人名	金額 (円・物品)
ダイキン工業株式会社	5,000,000
株式会社中田建機	1,000,000
株式会社フェニックス	530,300
Elreno Limited	500,000
日本グッドイヤー株式会社	414,090
羅臼漁業協同組合 定置漁業部会	330,000
ワイエスインターナショナル株式会社	222,590
株式会社フェニックス	208,790
アサヒビール株式会社	100,000
山洋建設株式会社	100,000
日本グッドイヤー株式会社	公用車のタイヤ無償提供
株式会社水野染工場	布マスク無償提供
カールツァイス株式会社	望遠鏡無償提供

(順不同・敬称略)

企業とともに、知床のために

① コラボレーション商品の開発

賛助会員の企業を中心に、私たちの活動に賛同して下さる皆様とコラボレーション商品の開発に取り組んでいます。オリジナル商品の売上は独自事業のための貴重な財源となります。



ワイエスインターナショナル株式会社のオリジナルブランドで、100%自然分解する服づくりを手がける「tennen」とのコラボレーションシャツ「Shiretoko Yoitoko Tee」



日本民芸品である張り子を制作、販売している株式会社一乃とのコラボレーション商品「シレットコ はりこーシカ」



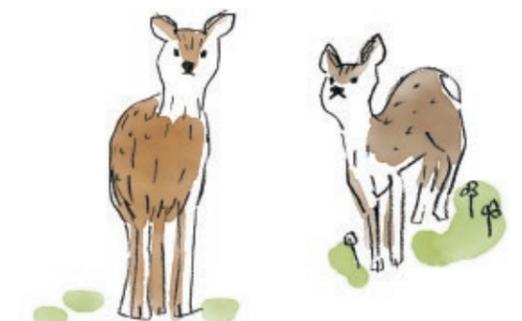
望遠鏡の提供 (カールツァイス株式会社より)



オリジナル布マスクの提供 (株式会社水野染工場より)

② 物品のご提供

昨年に続き、日常業務に欠かせない望遠鏡や公用車のタイヤなど現場で活用する物品をご提供いただきました。また、昨今のコロナ渦で必需品となった布マスクもご提供いただき、日々の業務に使わせていただいております。



賛助会員

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様を支えられています。2020年度は新たに114名、22団体にご入会いただきました。皆様のあたたかいご支援に厚く御礼申し上げます。

2020年度 賛助会員の状況

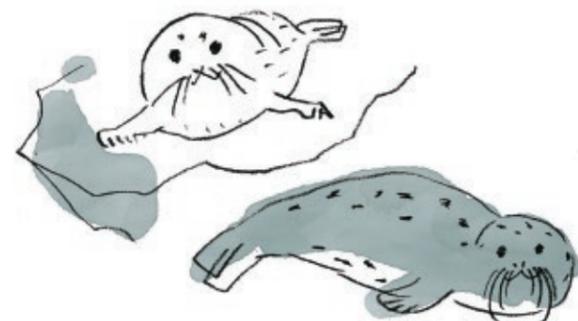
個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別会員	総会員数
736名	1,097名	64団体	27団体	1,924件

2020年度 法人年会員

※青字は斜里町・羅臼町の法人会員

法人名	所在地
株式会社ユートピア知床	斜里町
株式会社須田製版 釧路支店	釧路市
ゴジラ岩観光	斜里町
知床オブショナルツアーズSOT!	斜里町
有限会社みさき水産	羅臼町
有限会社赤岩水産	羅臼町
羅臼漁業協同組合	羅臼町
ウトロ漁業協同組合	斜里町
オコツク漁業生産組合	斜里町
株式会社辻中商店	羅臼町
有限会社木切別漁業	羅臼町
峯浜水産有限会社	羅臼町
有限会社知床ネイチャークルーズ	羅臼町
有限会社らうす第一ホテル	羅臼町
株式会社秀岳荘	札幌市
株式会社フェニックス	東京都
小川建設株式会社	羅臼町
株式会社大石アンドアソシエイツ	東京都
ピックス株式会社	斜里町
民宿 鷺の宿	羅臼町
田島公認会計士事務所	東京都
サージミヤワキ株式会社	当別町
株式会社小柳中央堂	北見市
小野建設工業株式会社	羅臼町
有限会社丸大阿部商店	羅臼町
株式会社ケミクル	羅臼町
知床ガイド協議会	斜里町
CSEG株式会社	東京都
ファームエイジ株式会社	当別町
羅臼石油株式会社	羅臼町
医療法人社団鶴翔会ついで整形外科	東京都
土橋工業株式会社	斜里町
安田商事株式会社	斜里町
株式会社ふれあい	石狩市
有限会社川上水産	羅臼町
斜里バス株式会社	斜里町
ワイエスインターナショナル株式会社	東京都

法人名	所在地
株式会社キムラシステム	札幌市
株式会社アヤメ緑化工業	中標津町
アリス動物病院	神奈川
株式会社バリュープロモーション	東京都
有限会社尾崎プロパティ	埼玉県
斜里建設工業株式会社	斜里町
株式会社かんぼ生命保険 旭川支店	旭川市
斜里第一漁業協同組合	斜里町
日本パトロール株式会社	愛知県
有限会社雄美	千葉県
株式会社もりのこうえん	静岡県
有限会社片山電気商会	斜里町
しれとこくらぶ	斜里町
山洋建設株式会社	中標津町
山本電子工業株式会社	網走市
知床サライ	羅臼町
株式会社丸あ野尻正武商店	斜里町
株式会社新宣組	札幌市
ワンドリームピクチャーズ有限会社	旭川市
株式会社OHANA	東京都
一般社団法人斜里青年会議所	斜里町
office albireo	東京都
株式会社クリオ	東京都
斜里通運株式会社	斜里町
BlueM株式会社	網走市
民宿いしやま	斜里町
株式会社セキグチ	埼玉県



2020年度 法人特別年会員

会員の募集

私たちの活動を応援して下さるサポーターを募集しています。

皆様から募った会費や寄附金は、
知床を未来につなげるために役立てられています。



撮影：梅村 佳寛

個人

- 1年間応援 個人会員 5,000円/年
- 生涯応援 個人終身会員 100,000円/生涯

法人

- 法人特別年会員 100,000円/年
- 法人年会員 20,000円/年



入会用サイト

入会、寄附の方法については[知床財団の賛助会員のサイト](#)をご覧ください。寄附も随時承っております。 →

知床財団への会費、寄附は所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となり、控除が受けられます。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。



知り



守り



伝える

組織概要

名称	公益財団法人 知床財団
設立	昭和63年(1988年)9月23日
設立者	斜里町・羅臼町
基本財産	4,500万円
所在地	〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地
目的	この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然環境の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。
事業	(1)野生動植物の調査・研究 (2)自然保護の普及啓発 (3)自然保護に関する諸団体との連携 (4)自然環境の保安全管理及び公園施設などの管理運営受託業務 (5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業
職員	45名(2021年3月31日時点)



Annual Report 年次報告 2020

発行：公益財団法人 知床財団 www.shiretoko.or.jp

発行日：2021年8月

Illustration：ETOBUNSHA